

# 特集 もっと知るう!!!川崎市国際交流センター

10月3日、(財)川崎市国際交流協会日本語講座ボランティア5名の方にいろいろとお話をうかがいました。センター開設以来久しぶりの座談会でしたが、在住外国人の増加に伴って変化してきたことや何年たっても変わらないことなど、貴重なお話を聞くことが出来ました。読者の皆様も、ボランティアの方のお話を耳を傾けてみませんか？

出席者氏名(敬称略)	担当クラス	経験年数
森田 松美(上級)	10年以上	安田 典子(上級) 10年目
高木 理佳(中級)	9年目	西坂貴美子(入門) 4年目
小川三智子(初級)	3年目	

**司会:** 日本語ボランティアを始めたきっかけは何でしたか。また、ボランティアをするようになって自分自身が変わったと思われることや、ボランティアをすることなどが予想したこと、実際にしてみても予想外のことなどがありましたらお聞かせください。

森田: たまたま新聞をみていたら、日本語教師養成講座というのを目にしました。これはちょっとお金になるかなと思い始めてみました。また、同じマンションにNECの住宅があって、そこに住んで



森田さん

ていた韓国の人に「わたしは」と「わたしが」の違いを聞かれた時、ちょっと困りました。答えられなかったわたしは、もう少し勉強してボランティアをしてみようと思いました。

ボランティアをしてみると、世界が近くなったような、また自分自身の視野が広がったような気がします。主婦という生活枠の中だけではどうしても視野が狭くなってしまおうように思うのです。ボランティアをするようになって、現在の政治の話にも入っていくことができるようになり、考え方に広がりが出てきました。

ことばを教えていると、いろいろな場面で細かいことにも気がつくようになりました。例えば、カラオケに行くと歌を歌いながら、この詞についてどう説明したらいいのかなあと考えてみたりします。

ことばのつながり方、心をこめた表現、特に情緒的なことばの解釈など、どう説明したらなんて考えますね。

安田: いろいろなボランティアをやっていましたが、特に国際交流に興味をもっていたので始めました。いろいろな国の方たちに接するので、自分自身の世界も広がります。日本語を教えるだけでなく、クラスで学習者を通して、それぞれの国のことについて学べることが多いですね。長いお付き合いなので、草の根交流ができるということもとてもいいことだと思っています。1年以上、長い方で2年ぐらいのお付き合いになりますと表面的ではなくて個人的なことも話すようになるので、お互いが分かりあえる場面も多くなりますね。

日本語のクラスへ来る方は皆さん忙しいので、魅力のある授業をしなければと思っています。楽しみながら勉強し、しかも充実した授業にしようと思うので気がつかれます。それに、留学生と違って、働きながらとか、主婦の方たちが空き時間を作って来ているので宿題などもなかなか出せない。でも、ある程度勉強しているからにはその分何とかできるようになってほしいのですが、そのへんの係わり方が難しいですね。

また教室に来ている人との係わり方で、たまたま妊娠した人の例をとると、どの病院がいいか聞かれたりして、生活面で係わるということも出て



安田さん

# ～日本語講座ボランティア座談会～

くるのですが、どの辺りまで係わっていいか難しいですね。係わり方も1人だけに親しくするのではなく公平でなくてはいけないと思うのでつい考えてしまうこともありますね。

高木: 下の子が幼稚園の年中の時、同じ幼稚園に中国から来ていた方がいて、家の子とよく遊んでいました。そのお母様との会話では、わかりやすい言葉を使って話すようにしていました。そのやりとりがとても楽しかったのです。こんなふうな日本語の勉強が



高木さん

できたという意欲を持てるようになったと思います。今まで遠い国の手続きをしながら、日本語ボランティアがあることを知りました。結婚する前にいた会社では貿易部において外国の方と接することも多かったのですが、これだ!と思いました。とにかく始めてみようと思い、日本語学校に通い出しました。

学習者に接してみてもすごくがんばっている姿に感心しました。それに全ての事に興味を持ってアクティブなので、いつも刺激を受けています。みなさんもお話されていたように、いろいろな国にも関心を持つようになりました。外国のニュースなどもじっくり見たり、聞いたりして、とても興味を持つようになりました。また、教室会話の中で、文化の違い、価値観の違いなども理解できるようになりました。日本人と接する時もささいなことに気をとられないで、大きな気持ちで人と接することができるようになったように思います。

西坂: 仕事をやめて、これからは好きな趣味をして楽しもうといくつか習い事をしましたが、何が満足感を持てずにいた時、娘が「日本語の教師をやってみたら」と勧めてくれました。どうしたらいいかわからず、その日のうちに本屋さんへ行って「日本語」という本を見つけました。最初のページに載っていた学校にすぐ手続きをし受講しました。日本語学校終了の翌日、交流協会に入れていただきました。仕事をやめてから趣味に力をいれていましたが、趣

味というのは生きがいにはならないんですね。日本語が話せるようになっていく外国人をみていると、自分のためだけではなく、少しは人の役に立ったかなという生きがいを感じます。ニュースやテレビを見た時、これまでより外国に関心を持つようになりました。教えている学習者の顔を思い浮かべながら「ああ、あの人はこういう所に住んでいたんだ」と、一段と興味深くなります。教室の中で話題にしてみようと、いろいろなものに目を向けるようになり、ものを見つめる姿勢が変わってきました。また日本語の使い方も気になりました。テレビなどを見ても、「その日本語おかしいんじゃない」と思うことが多くなりました。日本語を正しく話さなければいけないという意識を持てるようになったと思います。今まで遠い国の手続きをしながら、日本語ボランティアがあることを知りました。結婚する前にいた会社では貿易部において外国の方と接することも多かったのですが、これだ!と思いました。とにかく始めてみようと思い、日本語学校に通い出しました。

小川: 海外に住んでいる期間が長かったのですが、そこで「日本語を教えてください」とよく言われました。



小川さん

海外ではその国の方にとってもお世話になったので、日本に帰って来たばかりお返しできることはないかと思っていました。それには日本語を教えることが、お返しになるのではないかと思います。まず日本語学校に通いました。それがきっかけになってボランティアをするようになりました。

ボランティアをするようになると、日本語の使い方がとても気になり出しました。私は初級を教えているのですが、質問をしてから、日本語による答えが出てくるまで、かなり待たなければならぬことがあります。それで私はずいぶん我慢強くなりました。町で話している日本語、ニュースで話している日本語が今すごく気に掛かっています。

**司会:** 日本語ボランティアをしていて悩みはありますか？また喜びはどんなことでしょうか？

安田: 同じクラスの中でも能力に差があることとニーズの違いがあるので、一緒に上手く授業を進めていくことが難しいです。また皆さんが忙しい中を通して来ていらっしゃるのを楽しみながら学んでもらうことを常に考えています。私が受け持っているクラスは上級クラスなので、問題なく日本語を話せる方たちです。私の授業を受けることで、より上達してもらえるよう努力しています。

森田: いつも考えることは楽しい仲の良いクラスにすることです。仲間同志のつながりを大切にしてみたいと思います。授業は上級クラスなので教科書は使わずに本、ことわざ、クロスワードパズル等を使って雑学的なことも交えて行っています。高木: 私も楽しく授業することを心掛けています。皆さんに気持ちを込めて平等に接するようにしています。子育ての悩みを聞いたりすることもありますが、自分の価値観を押し付けることのないように注意しています。

教えているのは文法の説明がとても難しく、くどくど言わず「ピタッ」とくる説明をしたいと考えています。また日本語検定試験を受ける人からは多様な質問を受けるので教えることが難しいと感じています。西坂: 自分がなに気なく使っている日本語の違いをどのように説明したらいいのか悩みます。例えば「～よう」「～らしい」の使い方の違いです。自分でも意識することなく使っているものを説明するのはとても大変です。



西坂さん

先程から皆さんが言ったら「今日は日本語の日だから嬉しい!」と思われるように楽しいクラスにしたいです。一年間の授業が無事終わる頃になると、ホームパーティーやカラオケなど楽しい集まりが持てることもあります。私も参加させていただきますがとても嬉しいことです。クラス全体が仲良くなると、お休みする人もなくなりとても良いことだと思います。

小川: クラスの中でレベルの差があるので調整が難しいです。生活を取り込んだことを例にとって文法を教えるようにしています。生徒の日本語が上達していくのを見てると充実感があり、とても嬉しいです。

**司会:** 最後に、今後の日本語クラスの展開について、抱負がありましたらお話しください。またK I A N 読者へのメッセージとして、国際交流や異文化理解についてご意見がありましたらお話しください。

森田: 長く日本語ボランティアをしています。ただにアジア系の外国の方たちへの理解が偏っているように感じます。どこの国の出身かということよりも、各個人がどのような人かということに目を向けてほしいですね。また、日本人の男性と結婚して日本にやってきて住んでいる方も多いので、もう少し夫に、妻に対する協力と理解が必要だということをお話してほしいですね。

安田: クラス間の交流があるといいですね。どうしてもクラスの4～5名のみにつながりになりがちなので、レベルの違うクラスの方たちとも交流があるといいですね。また、住んでいる国の友人がいないとさみしい気持ちになると思うので、国と国を越えたお付き合いができるようになるといいと思います。週2回位の日本語講座で学ぶことは限られているので、家庭や社会の中でも学べるような環境が必要だと感じます。

高木: 私も学習者全体の交流の機会があったらいいと思います。また、以前学習者と地域の子供も達が交流する機会があったのですが、子ども達が異文化にふれる機会がもっとあるといいなと感じます。西坂: 外国の方たちが日本人の友達をつくることのできるようなきっかけが増えるといいですね。もっと社会全体(企業や行政、市民等)で共生に取りくむようになるといいと思います。

小川: 皆さんと同じですが、もっと交流に広がりがあるといいということ、日本人の友達をつくりたいという学習者が多いので、そういう機会も多くあるといいと思います。

ありがとうございました。  
(青柳尚子、福井すみ代、相沢明子)